

## 【きれいな水への第一歩】

福岡県 北九州市洞北中学校 二年 岩谷 光奈乃

私は、家の周辺の川や池を見ると度々「汚いな」と思います。水の濁り具合もそうですが一番目立つのは、ゴミです。道ばたにもゴミは捨ててありませんが、海や川、池となると生き物があるので、あやまって食べてしまうかもしれません。捨てられているゴミを見るたびに「どうしてわざわざ生き物がいるところへゴミをポイ捨てるんだろ。」とムカムカしていました。そのとき、ムカムカしていただけで何の行動もおこななかった自分が、真剣に水質問題・ごみ問題について向き合ってみようと覚悟を決めたきっかけとなる出来事がありました。

それは、SDGsのことをより理解できるようになることを目的とした校外学習の水環境館でのことです。水環境館は川・自然・環境について楽しく学べる施設です。地元の小倉の街を流れる紫川の歴史や紫川に住んでいる生き物を展示していたり、河川のことについて、ゲームを通じて学ぶことができたりしました。特に印象に残ったのが、過去の汚れていた紫川から今のきれいになった紫川になるまでの歴史です。かつて「死の川」と揶揄されていたほど汚れていた紫川が、人々の努力で水質が改善されきれいになった、というものでした。私は家に帰ってから、より深く知るために、紫川について調べてみました。すると、紫川について水環境館の館長さんが答えている記事を見つけました。その記事を読んだとき、私は衝撃を受けました。なぜなら、環境改善の象徴だったはずの紫川に再びゴミが戻っているというのです。その記事には、紫川にゴミがあるのは市民の意識が薄れてきたからではないかという推察が書かれていました。その言葉に私は、どうしてポイ捨てなんてするのか、その人たちの無意識な行動である、と分かった気がしました。おそらく、川や池、海や道などにゴミを捨てているのは、ゴミはゴミ箱に捨てるというあたりまえを意識していないからだと思いました。

ところで、少し話は変わりますが、私たちがきれいな飲み水を安心して飲めるのは、浄水場の人々や水道に関わる人々など、大勢の人のおかげです。しかしながら、私たちと同じように水を必要としている海や川、池の生き物たちの水は誰が浄化しているのでしょうか。いや、浄化する人なんて最初からいません。

私たちにおきかえて考えてみると、ゴミが浮いている水を浄化せずに飲むなんてことは、私たちにはできません。だからこそ、美しい自然を保つためにも、少しでも他の生き物たちが安心して飲めるようなきれいな水を私たちが作っていかねければならないと思います。そのための第一歩として、川や海、池にゴミを捨てないでほしいです。水は地球上のすべての生き物の生命の源です。その水の恩恵をこれからも私たちが享受し続ける以上、大事な水を私たちの手で汚さないように、守っていかねばならないと強く思います。